

## ミゾソバ類について

長谷川 義 人

Notes on *Persicaria thunbergii* Complex (*Polygonaceae*).

Yoshihito HASEGAWA

### はじめに

ミゾソバ類は日本全土に広く産し、当然ながら県植物誌にとってもこの分類は避けて通ることのできない部分であり、従来、幾多の先学が分類を試みながらも整然としているとは云いがたいと考えられる。特にミゾソバとオオミゾソバの間は典型品では全く問題はないとしても、実際にはしばしば境が分明でない。ヤマミゾソバは比較的まとまりのよい形態を持っているものの標本上では判断のむずかしい場合がある。

現在、神奈川県植物誌刊行のため植物誌調査会が野外で資料収集を行っているが、ミゾソバ類は多形であり常に分類がむずかしい。

本稿では広義のミゾソバ類のみを考察し、日本全土の採集品を検討し問題点を明らかにしたいと考える。

### ミゾソバの種類と分布

ミゾソバ（広義）はタデ科サナエタデ属ウナギツカミ節の植物で非常に多形で分類の困難な一群であるが、広義のミゾソバをいくつかの種・変種として分類すると和名上、ミゾソバ、オオミゾソバ、ヤマミゾソバ、ヒカゲミゾソバ、ハマミゾソバ（トゲナシミゾソバ）、ケミゾソバ、ビロードミゾソバ、タカネミゾソバなどに分けることができる。

ミゾソバ類似のものには、ミヤマタニソバ、サデクサがあり、前者はヤマミゾソバに、後者はオオミゾソバに系統的類縁があるように思われる。

広義のミゾソバは沖縄を除く日本全土（種子島、屋久島以北）、シベリア、サハリン、カムチャッカ、南千島、朝鮮、中国（東北区、河北、山東、江蘇、湖北、陝西、甘肅、長江以南各省、雲南、台湾）と更に西スマトラ、ビルマ、アッサム、ネパール、インドに分布する。

通例ミゾソバはオオミゾソバを含めて論じられている文献が多く、後者を変種として分ける考えは散見される。ヤマミゾソバをミゾソバの新変種として記載した牧野（1913）以後、これを独立の種とする大井（1973）、桧山（1954）の見解がある。

### 種類の特徴と産地（標本所蔵略記は次の通り）

**T**：東京大学総合研究資料館（TI）

**N**：国立科学博物館（TNS）

**M**：東京都立大学牧野標本館（MAK）

**KPM**：神奈川県立博物館

**YCM**：横須賀市博物館

**H**：長谷川所蔵

ミゾソバ：多形であって広義にはオオミゾソバ、ヤマミゾソバを消去して残ったものが、全てミゾソバとなる。普通は茎は横に這い先端やや立上り、又は斜上して傾斜屈日性を示す。葉は全く円形のものから、耳形、戟形のもの迄各段階のものがある。葉は一般的に中裂片はオオミゾソバより長さ短く、くびれ少なく基部耳片（側裂片）の発達はオオミゾソバより悪い。茎の上部の各節の葉腋と頂部に側枝を出し、これが花枝となる。茎の逆刺はオオミゾソバより鋭くなく目立たない。生態的には水田の畔、道端の溝沿い、川の岸など。茎の下部の節から発出する閉鎖花枝は1~2cmから10cm位である。（稀に30cm以上）

調べ得たミゾソバの標本は次の通りである。

北海道後志忍路（水島正美 Oct. 20. 1944 **T**）、北見市北光社（水島正美 Sep. 29. 1945 **T**）、陸奥上北郡四和村（成田うらら Sep. 17. 1946 **T**）、仙台台ノ原（小倉謙 1914 **T**）、下総船橋市小室町（大場秀章 Oct. 17. 1967 **T**）、安房小港内浦山（大場秀章 Aug. 6-8 1968 **T**）、相州与瀬（水島正美 Sep. 29. 1950 **T**）、武蔵菅

(川崎市) (牧野富太郎 Nov. 11. 1923 **M** 17412), 武蔵橋郡長津田 (水島正美 Nov. 4. 1951 **T**), 横須賀 (Savatier **N** 188860), 鎌倉 (浅井康宏 Apr. 27. 1952 **T**), 相模江ノ島 (百瀬静男 Oct. 20. 1931 **M** 141939), 駿河愛鷹山塊須津川 (金井弘夫 Nov. 14. 1954 **T**), 長野県南佐久郡中込町大字内山 (佐藤邦雄 Sep. 18. 1958 **T**), 三重県山田市外楠部 (孫福正 Oct. 1. 1933 **T**), 伊勢度会郡大内山村 (孫福正 Aug. 27. 1933 **T**), 滋賀郡堅田町花折峠 (村田源 Sep. 27. 1964 **T**), 滋賀県比良山八雲原 (村田源 Sep. 13. 1964 **T**), 京都 (小泉源一 Nov. 23. 1934 **T**), 兵庫県神崎郡大河内町長谷 (岩槻・小山 Oct. 16. 1966 **T**), 備中川上郡チカニ (吉野善介 Oct. 1914 **T**), 淡路室津村 (松田礼子 Aug. 30. 1943 **T**), 阿波国名西郡神山村焼山寺 (伊延敏之 Nov. 23. 1943 **T**), 九州門司市 (橋本保 Apr. 1952 **T**), 福岡県粕屋郡大川村長者原 (長野菊次郎 Oct. 11. 1891 **T**), 佐賀県金立 (カナサキ Aug. 24. 1951 **T**), 長い閉鎖花枝を持つものとして武蔵田端村 (牧野富太郎 Oct. 26. 1910 **M** 17452)。次のものは側裂片がなく卵円形又は円形のもの羽前八木橋村 (中村正雄 Oct. 17. 1899 **M** 17369), 秋田千秋公園 (村松七郎 Sep. 22. 1928 **T**), 福井県丹生郡糸生村 (前田正之 Nov. 1. 1951 **M** 12155), 岐阜県本巣郡根尾村樽見 (松井守正 Nov. 11. 1909 **M** 17384)。形状が小さくヒカゲミゾソバ形のもの, 鹿児島県甕島 (前田正之 Nov. 5. 1954 **T**)。

オオミゾソバ：一般的に茎は次第に立上ってこの類の中では最も屈曲性が強い。外観上最も剛直な感じを受け丈高くなる。ミゾソバ類では花の色は分類の役には立たないが、茎頂の通常花は散状に長い枝があるので紅色でよく目につく。葉は一般にミゾソバより中裂片長く、大きく、側裂片の横張りは大きく、中央のくびれの湾入も大きい。茎の逆刺はミゾソバより目立ち葉柄裏面にも並ぶことがある。葉質はこの類で最も厚く、葉柄の翼は発達して広い。オオミゾソバはしばしば山地の溪流沿いの堆積土や丘陵の湿潤な谷間を埋めて生態的優占種となり他のミゾソバより生活力が強い。閉鎖花枝は茎の基部各節から出て長さは20cm—40cmとなる。調べ得たオオミゾソバの標本は次の通りである。

札幌市円山 (河合徳恵 Sep. 7. 1942 **T**), 日高アボイ山麓 (中井猛之進 Aug. 1928 **T**), 羽後北秋田郡前田村 (村松七郎 Aug. 28. 1931 **T**), 新潟県粟島 (ケ

イ・モリ Sep. 5. 1950 **T**), 埼玉県入間郡飯能町仏子 (原寛 Sep. 19. 1949 **T**), 子ノ山 (久内清孝 Oct. 17. 1932 **T**), 埼玉県飯能市東吾野一越上山 (中池敏之 Sep. 28. 1975 **N** 333362), 武蔵国西多摩郡刈寄山 (中井猛之進 Sep. 1929 **T**), 武州御嶽 (村松七郎 1924 **T**), 武州高尾山 (久内清孝 Sep. 28. 1919 **T**), 武州多摩丘陵平山一高幡 (水島正美 Oct. 31. 1948 **T**), 稲田登戸 (富堅誠 Oct. 10. 1937 **T**), 相模丹沢焼山 (山崎敬 Oct. 6. 1942 **T**), 武蔵横浜西戸部 (牧野富太郎 1911. **M** 17446, 17424), 逗子市神武寺 (立石庸一 Dec. 15. 1968 **T**), 相模葉山, 長者村 (葉山町) (牧野富太郎 Feb. 22. 1961 **M** 17426), 足柄下郡真鶴町 (牧野富太郎 Fl. 1923 **M** 17439), 相模箱根仙石原 (榎山泰一 Sep. 5. 1929 **T**), 姥子湯 (奥山春季 Sep. 16. 1957 **N** 284574), 箱根小塚山 (水島正美 Oct. 9. 1949 **T**), 箱根芦ノ湖 (不詳 Sep. 8. 1904 **M** 17425), 伊豆湯ヶ島 (佐竹義輔 Nov. 17. 1936 **T**), 甲斐鳳凰山鷹ノ田 900m (山崎敬 Sep. 8. 1954 **T**), 信州追分 (佐竹義輔 Oct. 7. 1928 **T**), 飛騨国大名田 (本田正次 Aug. 14. 1925 **T**), 金大理学部内 (正宗厳敬 Oct. 1950 **T**), 近江鳥居本 (牧野富太郎 Nov. 1894 **T**), 奈良吉野 (中井源 Oct. 12. 1945 **T**), 紀伊西牟婁郡二川村 (中島濤三 Aug. 27. 1928 **T**), 備中上房郡サヨダニ村 (吉野善介 Sep. 1915 **T**), 愛媛県新居郡中萩町呉木 (越智一男 Oct. 31. 1942 **T**), 肥後国阿蘇山垂玉長陽間 (杉野辰雄 Oct. 16. 1931 **T**)。

キタミゾソバ (仮称)：オオミゾソバで北方や裏日本と高地のものは葉質薄く葉身長く基部の側裂片が三角状であり突出しない形のものが多い。オオミゾソバの一品と見るが、質的面は標本上ではヤマミゾソバと判断に苦しむ形がある。調べ得た標本は次の通りである。

札幌 (不詳 **T**), 野幌 (中井猛之進 Aug. 27. 1920 **T**), 青森ツタ温泉 (H. & M. OHBA, Sep. 15. 1978 **T**), 陸中焼石岳 (岩淵初郎 Aug. 14. 1936 **T**), 羽後由利郡岩城町亀田不動滝 (逸見操 Aug. 18. 1967 **N** 280254), 羽前アツミ岳 (古沢潔夫 Sep. 25. 1951 **T**), 羽前西置賜郡長者原 (小野幹雄 Sep. 29. 1954 **T**), 仙台向山 (小倉謙 Oct. 4. 1915 **T**), 宮城県仙台市 (T. NAITO Oct. 4. 1972 **T**), 下野日光中禅寺 (鈴木貞次郎 Aug. 10. 1931 **T**), 群馬県利根郡片品村 (不詳 Aug. 1904 **M** 17420—1), 井之頭 (牧野富太郎 Oct. 8. 1933 **M** 17448), 駿河愛鷹山塊大沢700m (金井弘夫 Sep. 20.

1954 T), 信濃菅平湿地1280m (S. TERAMOTO Aug. 27. 1947 T), 福井大野市カミコイケーカリコミイケ 1100m (金井弘夫 Aug. 26. 1973 N 314653), 福井県丹生郡糸生村(里見信夫 Sep. 22. 1956 M 209631), 越前今立郡冠山(細井与三右衛門 Aug. 1835.T), 京都府京大芦生演習林400m (H. TAKAHASHI & Y. NAITOH Oct. 28. 1971 N 303897), 鳥取県日野郡日南町500m 上(大場秀・秋山 Sep. 9. 1980 T), 鳥根県石見郡弥栄村(宮本巖 Jul. 22, 1965 M 53910), 周防アザミ山(奥山春季 Oct. 7. 1970 N 281219), 肥後球磨郡上村(前原勘次郎 Sep. 14. 1924 T)。

次のものは、あるいはヤマミゾソバと考えられる。上野清水峠旧道(榎山泰一 Set. 16. 1951 T), 天城山湯ヶ島(山崎敬 Oct. 21. 1944 T)。

ヤマミゾソバ: 直射日光の当たらない樹林下にあり、低温冷涼な環境を好むようである。葉は薄質で乾燥に弱いと思われるが、ミゾソバ・オオミゾソバ程水辺でない場所に生育する。茎は横屈地性と隠性屈湿性を持ち茎下部から枝を分かち、長く地上に横たわり全く立上ることがない。基部の節部から根を出し3 m<sup>2</sup>以上に拡がることも稀ではない。当然ながら基部各節から出す閉鎖花序の着く枝は短く3 cm前後である。調べ得た標本産地は次の通りである。

岩手県 稗貫郡 大迫町 早池峯一小田越800m (小山博滋 Aug. 28. 1962 T), 下野出流山(長谷川義人 Oct. 5. 1974 H), 栃木県雲岩寺(原寛 Oct. 19. 1981 T), 赤城山大沼(弥城謙 Sep. 24. 1905 M), 上州尾瀬ヶ原山ノ鼻(原・黒沢 Set. 3. 1978 T), 秩父横瀬小島沢(長谷川義人 Nov. 25. 1984 KPM), 武州妻坂峠(檜山庫三 Set. 14. 1941 M 274555), 武州水川あたご山(長谷川義人 Nov. 14. 1965 YCM), 武州青梅小沢峠(長谷川義人 Nov. 13. 1966 YCM), 八王子上案下(長谷川義人 Oct. 10. 1979 H), 武蔵高尾山(牧野富太郎 1933 M 16091 3枚内②③), 武州高尾山(久内清孝 Oct. 4. 1914 Co-type! TI), 相模宮ヶ瀬鳥屋荒井林道(平松俊子 Oct. 9. 1983 長谷川同定 KPM), 相模宮ヶ瀬立石(長谷川義人 Oct. 10. 1984 KPM), 相模箱根(久内清孝 Oct. 1914 M 16092 3枚内②③), 伊豆日金山(長谷川義人 Oct. 10. 1974 文献), 和泉葛城山(黒沢幸子 Nov. 1. 1966 T), 広島県吉和村中津川沿い(原・黒沢 Oct. 6. 1979 T), 山口県寂地山1000 m(原・黒沢 Oct. 5. 1979 T), 壹岐芦辺(K. OHKI Aug. 12. 1925 T), 愛媛県新居郡角野町 東平, 2枚

(越智一男 Oct. 5. 1942 T)。なお東大に所蔵されたカバー中には8枚であるが、肥前背振山(馬場胤義 Oct. 11. 1961 T)は葉長があり、キタミゾソバ(仮称)と思われる。

ミゾソバ類のその他の変異品(裸名のものを含む)以下ミゾソバの変種として記載された。

*var. coreana* (LÉVEILLÉ) NAKAI ヒカゲミゾソバ

これはミゾソバ・オオミゾソバ・ヤマミゾソバの小さい形のもので起源的には多系統のものようである。東大のヒカゲミゾソバのカバー中には七葉の標本があり、長崎県西彼杵郡大串村(千葉常三郎 Oct. 5. 1936 T) この標本は採集者の手で「深山湿地帯に産して所々小群をなして散生す皆矮生なり」との記があり(Det. H. HARA) *var. minima* HARA (in Sched.) の記がラベルにある。(筆者所見、ミゾソバ形の小さい形で耳がなく葉質はやや厚い。) 同形のものとして Kyushu (F. C. GREATREX 1938 *British Consulate, Nagasaki*) がある。筑前早良郡背振山(中島一男 Oct. 1. 1933 T) (筆者所見オオミゾソバ形の小さい形), 石狩層雲峽3枚(中井猛之進 Aug. 1928 T) (筆者所見ヤマミゾソバ形の小さい形), 相州箱根仙石原(水島正美 Sep. 6. 1951, 同 Aug. 8. 1947 T) 採集者の手で「常のミゾソバに比して多毛なり水辺湿地林下」との記あり。(筆者所見オオミゾソバ形の小さい形) 以上七葉。他にこの形のもの伊豆湯ヶ島(佐竹義輔 Nov. 17. 1936 T) (筆者所見。葉身8~13mm), 大和(不詳 Jul. 2. 1905 M 17388), 紀伊高野山(不詳 1905 M 17432)。次のものは葉が小さくヒカゲミゾソバ、又はヤマミゾソバとも考えられるもの。駿河安部峠1400m(山崎・松田 Oct. 17. 1925 T), 三河本宮山(稲垣貫一 Oct. 17. 1925 T), 富山県東礪波郡細尾峠(里見信夫 Sep. 21. 1963 T), 紀伊高野山奥の院(原寛 Sep. 7. 1953 T), 香川県木田郡三木町中山一大滝寺(H. カワサキ Aug. 5. 1957 T)。

*var. diffusa* HONDA ハイミゾソバ

羽後北秋田郡前田村(古家儀八郎 Oct. 11. 1926 T) Typus! ラベルに「地上に匍へ殆んど地平状(四方に散開す。)」とある。(筆者所見。ミゾソバそのものに見える。)

*var. dimorphophila* NAKAI (Nom. nud.) ケミゾソバ

日光田母沢寂光(伊藤洋 1931 T), 福島県光大寺, 2枚(服部保義 Oct. 9. 1933 T), 日光寂光(中井益

之進 Sep. 26. 1931 T) Typus! この標本に *Syn. Polyg. thunb. v. stellato-tomentosum* STEWARD P. P. との記入がある。(筆者所見。ケミゾソバは長い太いスムーズな毛が表面に密集して生えていて、オオミゾソバの一品種であろう。)

*var. flaccida* NAKAI

高野山 (坂口 総一郎 No. 34. Sep. 1928 T) Typus! (筆者所見。ミゾソバ又はヒカゲミゾソバ)。

*var. inermis* HONDA ハマミゾソバ

駿河志太郡和田村 (清水伝吉 Aug. 4. 1930 T) Typus! (筆者所見。茎に鉤刺なくスムーズ、葉の両面に毛がない。ミゾソバ形で葉の大きいもの。)

*var. microphylla* HONDA コバノミゾソバ

磐城国 西白河郡 金山村 (鈴木 貞次郎 Sep. 9. 1932 T), 磐城国 白河町 南湖公園 (同 Oct. 5. 1932 T) 2 枚のみ。(筆者所見。ミゾソバ形の小さい形。)

*var. minima* HARA

ヒカゲミゾソバの項参照。

*var. pterorachis* NAKAI (Nom. nud.)

日光大谷川岸 (伊藤洋 1931 T), 華厳 (不詳 Oct. 5. 1879 T), 日光 (不詳 Oct. 1879 T), 日光華厳 (不詳 Oct. 5. 1879 T)。以上タイプカバー。他に上野高崎市観音山 (栗原・大場秀章 Jul. 17. 1966 T), 大場秀章氏の話しでは、中井先生の日光植物のものは裸名であると言う。(筆者所見。オオミゾソバの大形のもので同じものと思われる。)

他には帰化品のピロードミゾソバは葉面に星状毛を全面に敷くもの。タカネミゾソバ (台湾) は果が二面二稜で褐色の種類。

### 調査の結果と考察

県植物目録 (1933), 県植物誌 (1958) はミゾソバ類をミゾソバ, オオミゾソバ, ヤマミゾソバの 1 種 2 変種としてまとめている。今回の調査ではミゾソバ, オオミゾソバについては多産するところから標本は豊富であった。

ヤマミゾソバについては県内では山地のもので、比較的標本が乏しく産地については箱根産 (久内) などが知られるのみで、実際はどの文献にも産地は挙げていない。これはヤマミゾソバの真の姿を認識している人が少ないことで、標本が集まらなかったことによる。筆者は幸いに 1965 年故榎山庫三氏から教示を受けて以来、この植物に注意を払ってきた。今回県植物誌合同調査に参加する機会を得て、清川村宮ヶ瀬地内の

2 ヶ所で自生を見出し神奈川県産の確実なことを知った。奥多摩から高尾山周辺には比較的多産するので県内に出現することは十分に予測できた。榎山 (1959) は植物研究雑誌にこの種の特徴を示し、樹下に産し、刺、毛少なく、茎直立せず、節間長く枝散開し地に伏し、葉身幅広く裂片の上でくびれず、葉柄に翼が出ないことを挙げ、特に果実に光沢があって (他のミゾソバには光沢なし) ミゾソバより丸味があり灰色がかったことで独立種に組換えられた。筆者の観察では更に葉の中央裂片の先端は急に長く突出し、側裂片はやや三角状に尖り鈍端、葉柄が長いことを挙げておきたい。

ミゾソバとオオミゾソバの葉の形質の差異を考える過程で新しく理解することが出来たことは、この両者とは異った形質を持つ種類が存在するらしいことである。北海道から東北、裏日本を通り九州に達する一連のミゾソバ中に質薄く、中央裂片が長く、くびれが少なく側裂片が三角状で非常に鋭く尖り葉裏脈上に星状毛が出る (ヤマミゾソバもほぼ同様) のものがあり、この形の中央裂片が短いものは、しばしばヤマミゾソバと誤認されるが、中央裂片の先端部を見れば直ちに区別出来る。筆者はこの北方一裏日本形の葉が長く、薄質のものを便宜上「キタミゾソバ」と仮称したい。この形のものを除くとオオミゾソバはやや理解し易くなる。

ヒカゲミゾソバは葉の小さい一形で遺伝的に矮化したものと思われる。茎上いつまでも小さい葉を生じ、異形のものである。高野山産は標本も多く比較的定まった葉形で、二、三の標本庫で見るとこれらを標準的なタイプと理解すればよいように考える。東大に所蔵される箱根仙石原産 (水島正義採集) は典型品より少し葉が大きい、この程度で大きさが固定していれば、この範囲のものと考えられる。

ミゾソバ類の毛については非常に変化が大きく多分分類学的形質としては採用できない。刺についても同様である。ケミゾソバはオオミゾソバの太い長粗毛のある極端形 (遺伝的) のものと見受けた。品種程度のもと考えたい。オオミゾソバの茎頂花序の枝には腺毛が多いが、他の変種にも少ないながらある。星状毛については茎葉に多少の差はあるが生ずるようで、南方にあるピロードミゾソバは葉面全体、密に星状毛があるとのことである。

## ま と め (検索的特徴)

既に論述したことで重複する面もあるが、もう一度整理してみたい。

### 1. ミゾソバ *Persicaria thunbergii* (Sieb. et Zucc.)

H. GROSS

茎は斜上するか横たわる。一般的には頂部の花序と共に通常花は中上部の各節部に短い花序枝となって腋生する。葉はオオミゾソバに比して長さは短く小形で葉身の湾入部は比較的小さいか、欠く。葉柄の翼は目立たない。基部の閉鎖花序枝は長くない。果は黄緑褐色で光沢はない。ミゾソバの葉身長を1とすると、各長さの比は最大幅0.72、くびれ部の幅0.47、葉柄は0.33で葉柄は他変種と比較して最も短い。

### 2. オオミゾソバ *Persicaria thunbergii* (Sieb. et Zucc.) H. GROSS var. *hastatotriloba* (MEISN.)

MIYABE

茎は維管束の発達により立上るか斜上する。葉面に毛が目立ち茎の下向鉤刺も目立つ。茎頂部の通常花の花序枝は上部数節のみから長く突き出てよく目立ち、腺毛の発達がよい。葉は上節のもの急に縮小する。葉は長く大きく葉身の湾入部は深く、基部はほぼこ形に両側へよく突出する。葉柄の翼は発達する。茎下部の閉鎖花序枝は10cmから30cm以上にも達し長く果実はよく成熟するが、茎頂の通常花は多くは不稔である。果は灰緑褐色で光沢はない。葉身を1とすると最大幅の比0.68、最小幅(くびれ)0.30、葉柄0.39でミゾソバ中湾入が最も大きい。因にサデクサの葉身長1、最大幅は0.93、最小幅は0.27、葉柄長は1でオオミゾソバに似ていても柄が長く葉身が狭長なることが分かる。

### 3. ヤマミゾソバ *Persicaria thunbergii* (Sieb. et Zucc.) H. GROSS var. *oreophila* (MAKINO) NEMOTO

茎は基部で分枝し長く横たわり節間は長い。葉は薄質で全く湾入部がなく、先端は尾状に延び、全体は短く卵状三角形である。葉柄の翼は発達しない。直射光の入らない樹林下に生育する。閉鎖花序枝は全く短い。果は灰色から灰緑色で最も光沢がある。(完熟して濃褐色のものもある?) 葉身長1の比は、最大幅0.89、くびれ部(側裂片の上部幅)0.65、葉柄長0.44で葉柄がミゾソバ中一番長いことが分かる。先端の急尾状部を除けば最も三角状に近い数値が得られる。又最大幅と最小幅(くびれ部)の差は最も小さい。なお本変種は武蔵高尾山がタイプロカリティであって、基準標本(T. MAKINO! Oct. 5. 1913)は参照できな

った。

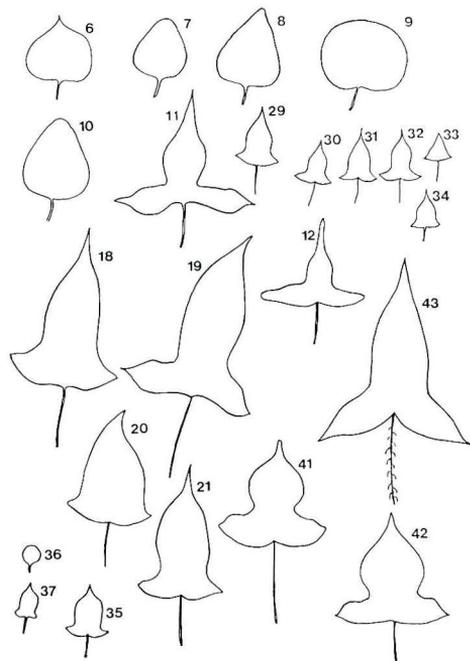
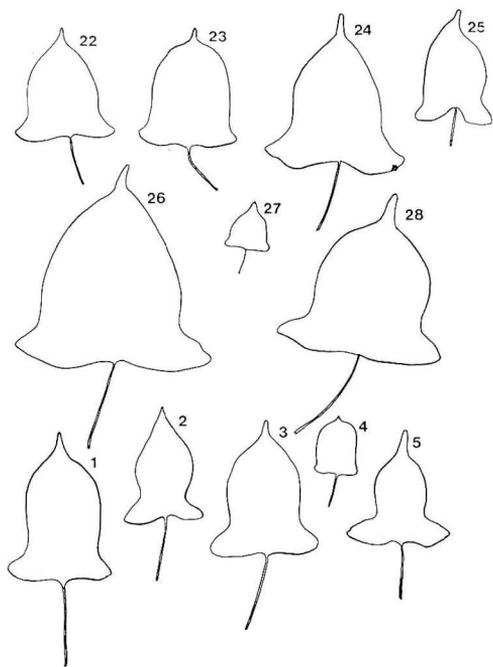
## おわりに

神奈川県産として記録できるミゾソバ類は1種2変種であり、ヒカゲミゾソバを加えれば3変種となる。現在、ヤマミゾソバは他変種から比較的よく分離できるが、ミゾソバとオオミゾソバの差を考慮すると独立の種とは考えにくい。変種として扱うのが至当と思われる。オオミゾソバの *epithet* は *hastatorilobum* (1826) と *stoloniferum* (1868) の二つがあり、後者の著者 Fr. Schm. はその記相文中で両者の移行形を認めて居り、牧野もこの両者は恐らく同一との見解を表明して居り(1910)もしもそうであれば前者 Meisner の学名が採用されることとなる。ミゾソバとオオミゾソバの区別点を中井(1909)は前者の側裂片は中央片の約 $\frac{1}{3}$ 長で、後者の側裂片は中央片の約 $\frac{1}{2}$ 長として、オオミゾソバの側裂片が長いことを示している。なおマルバヒメミゾソバ *f. radicans* は牧野(1910)によれば矮生の一品で貧弱な偶発的な一形であり、中井(1909)は葉の両側の裂片が殆んど消失し葉は卵形をなすものと解説している。

今回、神奈川県産にとどまらず、全国的な採集標本を調査することが出来たことは幸いであった。特に東京大学総合研究資料館植物部門、国立科学博物館、東京都立大学牧野標本館の各位には標本、文献の閲覧に便宜を計られたことに深く御礼を申し上げる。又、有益な教示をいただいた大場秀章先生に御礼申し上げます。日頃、合同調査を通じて神奈川県植物の調査に御便宜を与えられた県立博物館高橋秀男・大場達之両先生に感謝したい。若年より植物の御指導をいただいた榎山泰一、笠原基知治両先生にも紙面を借りて御礼申し上げます。

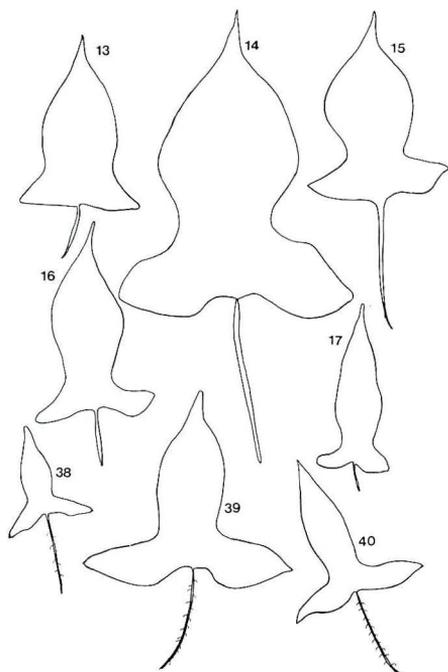
## 図版解説(産地)

- 1, 2, 38~40 東京都葛飾区水元公園 (Set. 9. 1984 KPM・H)
- 3, 4, 15~17 横浜市南区永田台 (Nov. 4. 1984 KPM・H)
- 5, 13, 22~25, 28 清川村宮ヶ瀬立石 (Oct. 10. 1984 KPM・H)
- 6 京都(小泉源一 Oct. 23. 1934 T)
- 7, 8 秋田千秋公園(村松七郎 Sep. 22. 1928 T)
- 9 羽前八木橋村(中村正雄 Oct. 17. 1899 M)
- 10 岐阜県本巣郡根尾村樽見(松井守正 Nov. 11. 1909



M), 福井県丹生郡糸生村 (前田正之 Nov. 1. 1951 M).

- 11 愛知県稲武町井出 (鳥居喜一 Sep. 15. 1963 N),  
相模足柄下郡箱根芦ノ湖 (不詳 Sep. 8. 1904 M).
- 12 山城国乙訓郡小塩山 (山本肇 Aug. 27. 1933 N).
- 14 箱根仙石原 (Nov. 1. 1984 KPM・H).
- 18 肥後上村 (前原勤次郎 Sep. 14. 1923 T).
- 19 福井県大野市 (金井弘夫 Aug. 26. 1973 N).
- 20, 21 秋田県由利郡岩城町 (逸見操 Aug. 18. 1967 N).
- 26, 27 秩父横瀬小島沢 (Nov. 25. 1984 KPM・H).
- 29 大和 (不詳 Jul. 2. 1905 M).
- 30~34 紀井高野山 (田代善太郎 Aug. 10. 1936 N).
- 35 鹿児島県甕島 (前田正之 Nov. 5. 1954 T).
- 36, 37 九州(長崎?) (F. C. GREATREX 1938 T).
- 41 台湾・イラン (田村道夫 Sep. 11. 1964 N).
- 42 東ネパール (原寛他 Dec. 4. 1963 N).
- 43 北米 (不詳)



図版解説 (種類)

- 1~5 ミゾソバ
- 6~10 マルバヒメミゾソバ (Sens. NAKAI)
- 11, 12 オオミゾソバ
- 13~17 オオミゾソバ

- 18~21 キタミゾソバ (仮称)
- 22~28 ヤمامミゾソバ
- 29~35 ヒカゲミゾソバ
- 36, 37 (var. minima HARA)

- 38~40 サデグサ  
 41 タカネミゾソバ  
 42 ミゾソバの変種  
 43 *Tracaulon arifolium* (L.) Raf.=*Polygonum arifolium* L.

附：ミゾソバ類の学名並びに異名表

ミゾソバ

- Polygonum thunbergii* SIEB. et ZUCC. in Abh. Akad. wiss Muench 4(3) : 208(1846).  
 Steward in Contr. gray Herb. 88 : 83(1930).  
*Polygonum thunbergii* SIEB. et ZUCC. var. *typicum* Franch. et Sav. Enum. Pl. Jap. 2 : 475(1876).  
*Polygonum arifolium* THUNB. (non LINN.) Fl. Jap. 168(1784).  
*Persicaria thunbergii* (SIEB. et ZUCC.) H. GROSS in Engl., Bot. Jahrb. 49 : 275(1913).  
 f. *viridialba* IWATA シロバナミゾソバ  
 f. *radicans* (FRANCH. et SAVAT.) MIYABE  
 マルバヒメミゾソバ  
 f. *inermis* (HONDA) SUGIMOTO ハمامミゾソバ  
*Persicaria thunbergii* (SIEB. et ZUCC.) NAKAI var. *typica* (FRANCH. et SAVAT.) OHKI in Bot. Mag. Tokyo. 40 : 56(1926).  
*Persicaria thunbergii* (SIEB. et ZUCC.) NAKAI ex Mori Enum. Pl. Cor. 133(1922).  
 Rigakkai Vol. 24 : 12(1926).  
*Truellum thunbergii* (SIEB. et ZUCC.) SOJÁK.  
 オオミゾソバ  
*Polygonum hastatotrilobum* MEISN. in Ann. Mus. Bot. Lugd. -Bat. 2 : 62(1826).  
*Polygonum thunbergii* SIEB. et ZUCC. var. *hastatotrilobum* (MEISN.) MAXIM. ex FRANCF. et SAVAT. Enum. Pl. Jap. 2 : 475(1879).  
*Polygonum stoloniferum* FR. SCHM. Reis. im Amur u. Isl. Fl. Sachl. 168(1868).  
*Polygonum thunbergii* SIEB. et ZUCC. var. *stoloniferum* (FR. SCHM.) MAKINO in Bot. Mag. Tokyo. 24 : 74(1910).  
*Persicaria thunbergii* (SIEB. et ZUCC.) H. GROSS var. *hastatotriloba* (MEISN.) MIYABE in Journ. Fac. Agr. Hokkaido Univ. 26 : 517.  
*Persicaria hastatotriloba* (MEISN.) OKUYAMA.  
*Persicaria thunbergii* (SIEB. et ZUCC.) H. GROSS var.

*stolonifera* (FR. SCHM.) NAKAI ex HARA in Journ. Jap. Bot. 9 : 254(1934).

f. *foliacea* HONDA オハツキオオミゾソバ

f. *viridans* HONDA アオバナオオミゾソバ

ヤマミゾソバ

- Polygonum thunbergii* SIEB. et ZUCC. var. *oreophilum* MAKINO in Bot. Mag. Tokyo. 27 : 251(1913).  
*Polygonum oreophilum* (MAKINO) OHWI, Fl. Jap. 1440(1973).  
*Persicaria thunbergii* (SIEB. et ZUCC.) H. GROSS var. *oreophila* (MAKINO) NEMOTC. Fl. Jap. suppl. 176(1936).  
*Persicaria oreophila* (MAKINO) HIYAMA in Journ. Jap. Bot. 34 : 340(1954).  
 ヒカゲミゾソバ  
*Polygonum thunbergii* SIEB. et ZUCC. var. *coreanum* LÉVEILLE in Fedde Rep. 171(1910).  
*Persicaria thunbergii* (SIEB. et ZUCC.) H. GROSS var. *coreana* (LÉVEILLE) NAKAI in Fl. Koreana 511(1911).
- 文 献
- FR. SCHMIDT 1868 Reisen im Amurlande und auf der Insel Sachalin, "Flora Sachalinensis" 168-169.  
 FRANCHET, A et SAVATIEF, L. 1879 Enumeratio Plantarum Japonicarum. 2 : 475.  
 中井猛之進 1909 日本産蓼科植物(承前). 植物学雑誌. 23 : 418.  
 T. MAKINO 1910 Observation on the Flora of Japan in Bot. Mag. Tokyo. 24 : 74.  
 中井猛之進 1911 "Flore Koreana" 東京帝国大学理科大学紀要. 31 : 511.  
 T. MAKINO 1913 *Polygonum thunbergii* var. *oreophilum*, var. nov. in Bot. Mag. Tokyo. 27 : 251.  
 中井猛之進 1926 蓼類の新分類法. 理学界. 24(4) : 1-13.  
 A. N. STEWARD 1930 The Polygoneae of eastern Asia. Gray Herb. 83.  
 牧野・根本 1931 訂正増補日本植物総覧. 春陽堂. 264.  
 T. NAKAI 1931 Notulae and Plantas Japoniae &

Korae in Bot. Mag. Tokyo. 45 : 115.

原 寛 1934 Flora of Karuizawa III in Journ.  
Jap. Bot. 9 : 254.

中井, 他 1936 日光の植物と動物. 東照宮. 19・20.

檜山庫三 1959 ヤマミゾソバについて. 植物研究雑

誌. 34 : 340.

長谷川義人 1981 「箱根植物への追加」. 植物と自然.  
15(5) : 29.

(神奈川県植物誌調査会)